

「共創する生徒」の育成を目指して —令和4年度の刈谷南中学校の授業実践より—

伊倉 剛

刈谷市立刈谷南中学校

1 主題設定の理由

生徒がその子らしさを発揮しながら、仲間とともに本気で学ぶ姿が見たいと常々思う。本校では、昨年度までの取り組んできた研究「自ら学ぶ生徒の育成」により、各教科等の授業において、生徒が主体的に学習に取り組む姿が日常的に見られるようになった。これは、「話し合いにおける視点の明確化」や「ペア・グループ学習の工夫」などの教師支援が有効であったことと、特別活動や道德等、教育活動全体を通して、仲間と共に粘り強く学習に取り組もうとする人間性が養われつつあるからだと考える。しかし、生徒が本気で学んでいるかという、物足りなさを感じる。本校の生徒は、好奇心旺盛である。生徒の好奇心を刺激し、夢中になって学びを進める生徒の姿が見たいと切に願う。

そのためには、学びと生活を統合し、「学びをリアルにすること」が必要だと考えた。学びを教科書や教室に閉じず、地域をフィールドに活動したり、専門家や当事者等の知見を得ながら、多様な他者と共によりよい考えを創る経験が必要だと考える。これは、予測不能な社会をよりよく生きることを目指した学習指導要領の理念「社会に開かれた教育課程」の実現とも合致する。そこで、研究主題を「共創する生徒」とし、研究を進めることにした。

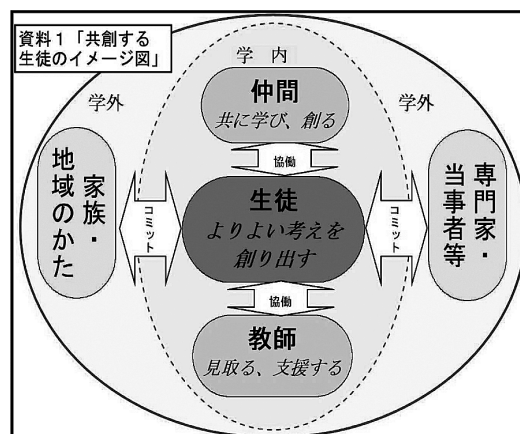
2 目指す生徒像「共創する生徒」について

(1) 「共創する生徒」の定義

「共創する生徒」を「専門家や当事者等の知見を得ながら、多様な他者と共によりよい考えを創り出す生徒」と定義する。

「多様な他者」とは、①学内の仲間や教師、

②身近な家族や地域の方、③学習問題に関わる専門家や当事者等、①～③の全てを含むこととする。(資料1)



(2) 「共創する生徒」を育成するための3要素

- ①共感し合える人間関係の構築
- ②生徒の考えを引き出す教師の授業技術
- ③多様な他者と共に創る単元の構想

①・②は、共創するための土台となるものである。①は、特に、級友を始めとした共に学ぶ仲間と共感し合える人間関係の構築が重要であると考えられる。②は、生徒が学びの主体となって学習を進める上で、欠かせないものであり、本校でも長年積み上げてきた技術である。教員の世代交代が著しい昨今、本校においては20代教員が4割以上を占めている。三河地区で大切にされてきた「子どもありき」の授業観に基づいた授業技術の継承と更なる向上に努める必要がある。

③は、本研究の柱である。①・②を土台として、教科等の学習を進める際に、学びを教科書や教室に閉じず、専門家や当事者等の知見を得ながら、多様な他者と共によりよい考えを創り出す生徒の育成を目指したい。

3 授業の実際

～3年・英語科「Be Prepared and Work Together (準備して共に備えよう)」より～

単元導入で、生徒A（以下A）はALTと話す中で、日本人と外国の方では、防災に対する認識に違いがあることを気付いた。そして、災害に備えるために必要なことを外国の方に伝える必要があると考えた。そのために、まずは自分が防災について正しく理解しようと、タブレット端末等で災害対策について調べ始めた。そして、「災害キットには何を準備しておくべきか」について、最も大切だと考えたものを仲間へ次のように表現した。

“We should put water in an emergency kit because people can't live without water and we need 3 liters a day.”

仲間の考えを聞き合う中でAは、「外国の方は、災害が起こったら、どんなことで困るのだろうか」という問題を見だし、実際に全国の災害現場で支援活動をされているNPO法人の方に話を聞くことにした。（資料2）そして、聞いた話を基に、日本に住む外国の方のためにできることを追究した。

資料2 「NPOの方と交流する生徒」



単元終盤では、「外国の方に知ってほしい地震対策」のポスターを作成した。（資料3）そして、刈谷市市民活動部市民協働課の方等と意見交流し、Aはこれまでの考えを更に深めていた。

4 研究の成果と今後の課題

今年度、生徒会の呼びかけで、「校則見直しプロジェクト」が立ち上がった。有志22名は、「必要性と合理性」という視点で

議論し、一定の方向性が見えたとき、生徒から「マナー講座でお世話になった講師の方に、議論に参加してもらえないか」という提案が出た。「必要性と合理性」という視点に沿っているのか、外部の方の客観的な意見が聞きたいという思いからである。

講師の方に意見をもらった後、更に議論を重ね、生徒議会で提案し、全校生徒の同意を得られた。会の後、講師の方から、「皆さんのような人がこれからの社会には必要だ。この場に立ち会えて本当に幸せ」という言葉をいただいた。有志は感極まり、互いの労をねぎらったり、感謝の言葉を伝え合ったりしていた。

この取組での生徒の姿が「共創する生徒」が目指す代表的な姿である。自分たちの生活を自分たちの手でよりよいものにしようと、多様な他者と共に新たなものを創り出す。この姿の表出は、全教員が各教科等を始めとした教育活動全体で「共創する生徒」の育成を目指してきたがゆえであろう。

以下に課題を示す。引き続き研究を進め、更に生徒が本気で学ぶ姿を引き出したい。

- ・生徒の生活と教科等の学びの更なる統合
- ・生徒の思考に添った連続性のある単元構想
- ・学んだことを発信する場の充実

資料3 「A作成の地震対策ポスター」

